

▲△▲ 八ヶ岳 阿弥陀岳（赤岳） ▲△▲

（報告） FJ

◎期日：2020年8月9日

◎メンバー：FJ（L）、他1名（友人TT）

八ヶ岳の阿弥陀岳に日帰りで行く事にした。ルートは美濃口～御小屋山～阿弥陀岳～行者小屋～美濃戸山荘～美濃口の予定である。今年はコロナ禍の中、登山者は少ないと思っていたが、美濃戸山荘の駐車場は満杯。八ヶ岳の玄関口らしく登山者で賑わっていた。3連休の中日であり、梅雨明けが遅くなったのが要因か。例年よりも登山者が多いのだろう。



曇天模様の中、別荘地帯の舗装路を登っていき樹林帯に入る。御小屋尾根に通じる登山道は、美濃戸山荘方面に比べて登山者が少なく静かな山行が楽しめた。御小屋山に到着し、その後、不動清水に到着。御小屋山～不動清水まで地図（山と高原地図）のコースタイムは1:40であるが、実際には40～50分程で着いてしまった。急いで歩いた訳でもないし、甘めに設定されていると感じる（他の男性登山者も同様な事を話していた）。途中で難所はないし、平均化してもコースタイムは1:00程がいいところかなと。

阿弥陀岳山頂に向けて高度を上げていくと周囲はすっかりガスの中となり、樹林帯を脱しても絶景や高度感を楽しめない。午後から晴れる予報なので、これからに期待する。

岩稜地帯を登り、阿弥陀岳頂上に到着。荒々しい山なのに、頂上はかなり広い。ここで、昼食休憩とし、ガスがなくなることを期待して待つことにする。時折、ガスの切れ目から下界や権現岳が見えて、オーッと他の登山者の声上がるが、ほんの数秒で終わり。1時間近く頂上にいたが、ガスは晴れなかった。

眺望を諦めて、中岳の科尔に向けて下り始める。10分程下っただろうか、ガスが段々と晴れてきて、赤岳、権現岳が見えてきた。阿弥陀岳山頂からも見えるようだ。タイミングが悪かった……。それにしても、正面に見える赤岳の迫力が凄まじい。



阿弥陀岳山頂

予定にはないが、赤岳に登ろうと友人に相談するが、友人は行者小屋で待っているとのこと。中岳のコルで別れて、筆者は赤岳山頂を目指す。南八ヶ岳の山々の眺望が素晴らしい。勢い出し過ぎて息が上がってしまったので、少しペースを落とす。

やがて赤岳山頂に到着。清里方面の眺望も良く、ここまで登ってきた甲斐があった。赤岳山頂小屋は、コロナ拡散防止のため営業自粛のボードが置かれていた。来年は通常営業できる状況であってほしい。

文三郎尾根を下って、行者小屋に到着。無事に友人と合流できた。行者小屋のベンチは登山者で賑わっていてテント場には多くのテントが張られている。但し、小屋は宿泊/売店の営業はやっておらず、小屋番の方が1人いた。トイレは使えたので、有り難い。

下山は、南沢を下りる。20代の学生の頃、今日とは別の友人に誘われて美濃口から赤岳に登ったのを思い出した。赤岳山頂小屋に着いたのは、17時位で完全なタイムオーバー。夕日を見ながら自炊したのが印象に残っている。当時は綿Tシャツ、ジーンズ、リュック、運動靴の装いで素人丸出しだった。真夏の時期だったとはいえ、知らないって怖いなど今でも反省。

美濃戸山荘に到着し、休憩、ジンジャーエールが体に染み込む。美濃口に戻り帰路につく。日帰りでも、夏の八ヶ岳をそれなりに楽しめた山行であった。首都圏からアクセスが良く、3000m近くの山に登れるので、改めて貴重な山域だと感じた。

<<参考コースタイム>>

美濃口 8 : 10 ~ 御小屋山 9 : 30 ~ 不動清水 10 : 20 ~ 阿弥陀岳 12 : 00 ~ 中岳のコル 13 : 15 ~
文三郎尾根分岐 13 : 35 ~ 赤岳山頂 13 : 55 ~ 文三郎尾根分岐 14 : 25 ~ 行者小屋 14 : 50 ~
美濃戸山荘 16 : 30 ~ 美濃戸口 17 : 30

(了)



赤岳



阿弥陀岳